

# サステナビリティを考慮した新たな食品包装の研究

Study on Renewing Grocery Packages Concerning Sustainability

山崎賢太郎 YAMAZAKI Kentaro 2018年入学 | 工業設計学科 Department of Industrial Design

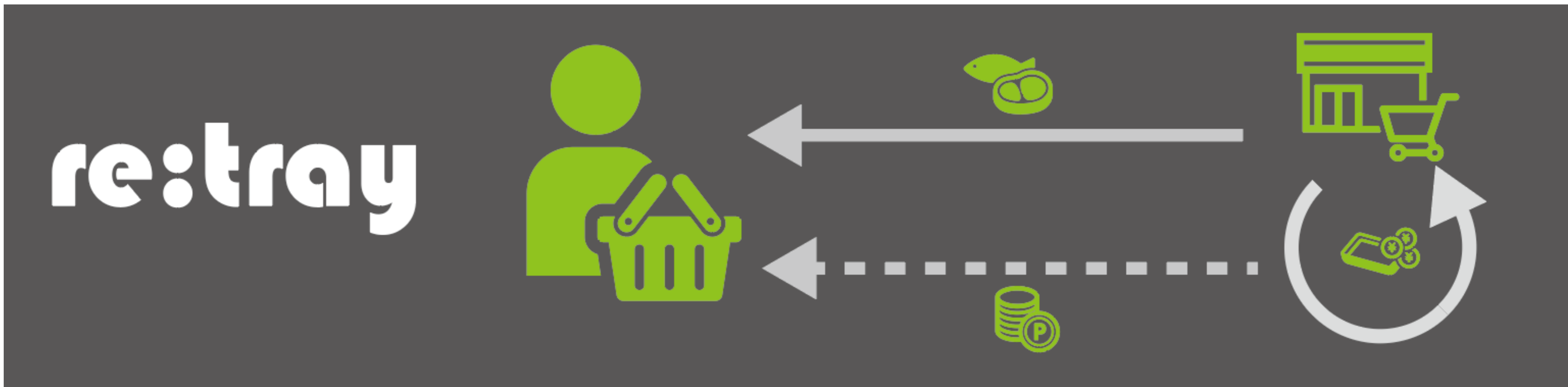
分類: 卒研

作品/論文: 作品

制作年度: 2022年度

課題概要: プロダクト、サービス

受賞等:



「re:trayシステム」の概要。パッケージの長寿命化によって、消費一回当たりのプラスチックごみ排出量減少と長期的なパッケージコストの削減を狙う。浮いたパッケージコストの一部をポイントで消費者へ還元し、利用を促す。



「re:trayシステム」で使用するトレー型パッケージ「the tray」。黒(マット)にすることで、バージン素材でないリサイクル素材から生産することができ、見栄えの観点からも高級な印象を与える事ができる。

## 【背景・目的】

最も大衆的な消費現場であるスーパーマーケットは、プラスチック製食品包装容器を大量に消費し続けており、プラスチックごみ問題の一主要因と考えられている。特に、肉や魚のトレーパッケージには100%プラスチック製の容器が多く使用されており、新たなデザインが期待される。本研究では、スーパーマーケットの肉・魚用包装の現状の課題と要件を調査し、サステナブルな新しいデザインを提案することを目的としている。

## 【調査】

文献調査やスーパーマーケットでのインタビュー調査を通して、社会ニーズとして脱プラスチックや資源循環、現場ニーズとして見栄えやコスト、扱い易さなどが特に求められていることが分かった。また、使用済容器の最終的な処理を消費者に依存する、偏ったリサイクルシステムがあることも明らかになった。

## 【コンセプト】

調査結果をもとに、コンセプトを「ゴミとなるプラスチックを減らす、メーカー・スーパー・消費者にとって三方よしのパッケージ」と定めた。

## 【デザイン提案】

返却・循環型トレーパッケージシステム「re:trayシステム」を提案する。耐久性とデザイン性に優れたトレーを店頭で回収し、繰り返し再利用していくことで、資源廃棄のペース鈍化とコスト低下を狙うビジネスモデルである。消費者も洗浄・分別・持参をすることなく資源削減に寄与できるようになり、リサイクルのための負担削減にも繋がる。

本提案では、耐久性と携帯性を重視した再利用型トレー「the tray」を使用する。素材はセルローズファイバー成形素材を検討している。インタビューを参考に、商品との色や明るさのコントラストを高め、リサイクル素材の利用可能性も高めるべく、色を黒(マット)に設定した。



実際の販売時のイメージ